

## 対話性を重視した学びに基づく教育実践の創造

### I 研究の目的

対話性を重視した学びの視点から、日々の教育実践を捉え直し、それらを引き出す有効な手立てや要素を考える。子どもの思いや行動等を受け止めながら、対話性を重視した学びに基づいて授業実践を積み重ねる。

### II 本校における対話性の捉え

本校では、対話性を「相互主体的に、自分の考えを表現したり他者の考えを受け止めたりする中で、新たな認識を柔軟につくり出す態度や性質」と定義した。

複雑な日常生活の中で大切な要素

「自ら考え、判断して行動を調整する」力

対話性 (本校での捉え)

「相互主体的に、自分の考えを表現したり他者の考えを受け止めたりする中で、新たな認識を柔軟につくり出す態度や性質」

「対話性の視点から見た子どもの段階」 (案)

ステージ1	教師の言葉かけなどに対して、視線、表情、身振り等でやりとりする段階	対 教師中心	安心感
ステージ2	周りの事柄に興味をもち、1～2語文でやりとりする段階	対 教師中心	外界の事柄への興味
ステージ3	友達を意識して、自分の考えをもって伝えることのできる段階	対 友達、教師中心	友達への関心
ステージ4	友達同士で、お互いの考えを伝え合うことのできる段階	対 友達、仲間中心	友達の考えを踏まえた意見の選択
ステージ5	受容的な雰囲気中で、集団の中で考えを柔軟につくり出す段階	対 仲間中心	仮説や推論を基にした新たな意味や問い

【対話性を重視した学びに基づく教育実践：本校の研究のイメージ図】

学習者の状況	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
教師の言葉かけなどに対して、視線、表情、身振り等でやりとりする段階 【対 教師中心】	周りの事柄に興味をもち、1～2語文でやりとりする段階 【対 教師中心】	友達を意識して、自分の考えをもって伝えることのできる段階 【対 友達、教師中心】	友達同士で、お互いの考えを伝え合うことのできる段階 【対 友達、仲間中心】	受容的な雰囲気の中で、集団の中で考えを柔軟につくり出す段階 【対 仲間中心】	受容的な雰囲気の中で、集団の中で考えを柔軟につくり出す段階 【対 仲間中心】

### III 授業作り

研究授業、一教師一授業、部内研究会と実践を重ねてきた中で、対話性を重視した学びにおける授業実践において大切にしなければならない視点が少しずつ明らかになってきた。授業作りにあたり、二つの視点を大切にしている。一つ目は「子どもの内面を大切にする」こと、二つ目は「それぞれの主体的な思いや考えを尊重しながら、違いを活かす」ことである。

授業作りの視点

(1) 子どもの内面 (意欲, 安心感) を大切にする。

- 子どもの願い、思いは何か？主体的になれないとしたら、それはなぜなのか？根気強く向き合い続ける。
- どのような思いをもって取り組んでいるのかを、問い続ける。(主体的/受身的)

授業作りの視点

(2) それぞれの主体的な思いや考えを尊重しながら、違いを活かすことを大切にする。

- 違いがあるから、気付きや学びの広がりが生まれる。
- 一人一人が、主体的な思いや考えを表現できる手立てを工夫する。
- 何をやるのか(目的意識)、相手は何を表現したのか(相手を受け止める)が分かる状況作りに配慮する。